



# 地域ケアプラザの機能

## 1 福祉・保健の相談・支援

地域の身近な相談窓口として、福祉・保健の専門の相談員が相談を無料でお受けし、情報提供や関係機関との連絡調整を行います。(地域包括支援センター機能があります。)

## 3 保健・福祉サービス

高齢者デイサービスなど地域のニーズにあった様々な福祉・保健サービスを提供します。※一部の施設は実施しません

## 2 地域活動・交流

地域の皆さんの福祉・保健活動等の支援や交流の場として、多目的ホール等の各部屋をご利用いただけます。

認知症予防教室や介護予防、子育て相談など講座なども開催しています。



介護予防教室の様子

調理室での配食ボランティア活動



職員体制： 所長、地域包括支援センター（社会福祉士、保健師等、主任ケアマネジャー）  
地域活動交流（コーディネーター、サブコーディネーター）  
※ その他、非常勤職員等を配置（介護保険部門は省略）

3

## 地域ケア会議に関する取組み

### <平成24年度の取組み> マニュアル待ちの状態

H24年11月 研修会の開催

- ・ 地域ケア会議の理解（講師：高良 麻子先生）
- ・ 多職種連携の取組み（区、包括から事例発表）

H25年3月 他都市視察

神奈川県地域包括ケア会議（神奈川県主催）  
県内の自治体の取組み共有

### <平成25年度の取組み> 具体的取組み開始

#### 【局担当者での検討】

#### 目的：地域包括ケアシステムの構築

いきなり壮大なシステムづくりを考える訳ではない。Aさん、Bさん個別の課題解決から始めるが、個別の問題に終わらせない。そこからどうやって、普遍化し応用できるシステムにしていくか。超高齢になっても、介護が必要になっても暮らし続けられる地域づくり  
家族だけでなく、公的サービスだけでもない、地域の互助も含めた多職種のネットワーク、地域にチームをつくること→地域ケア会議を実施することを目的にしない

#### 地域包括ケアシステムの構築に向け、地域ケア会議を活用するために必要なこと

- ・ 地域ケア会議を活用した地域包括ケアシステムの構築について、市としての方針を示す（現在実施している取組みも含め、全体像の構築）→区や包括と協議しながら
- ・ 区、包括職員が、地域ケア会議を理解し共通認識を持って取り組むことが大切→研修
- ・ 取組みを標準化するため、具体的実施方法について手引きなどの作成→ワーキング

地域ケア会議活用推進等事業補助金活用

4





## <平成25年度の取組み>

具体的に何から実施するか

地域ケア会議の始点は、個別のケース検討法の理念に立ち返り、自立支援に資するケアマネジメントの支援ケアマネジャー1人でケアプランを考えるのではなく、ケースに関わっていない多職種も参加し様々な観点から検討する。

### <現状>

- 定例カンファレンス(月1回): 包括と区でケースの検討、情報共有中心
- ケースカンファレンス: ケースに関わっている職種+区や包括



**充実、強化が必要**

**区、包括職員が、地域ケア会議について共通認識を持って取り組むことが大切**

5

## <平成25年度の取組み>



H25. 6月

**区、包括別に研修会を実施**

- ・ 地域ケア会議を活用した地域包括ケアシステムの構築について、共通理解を図る  
講師：厚生労働省振興課 岡島さおり氏
- ・ 局担当者から、今年度の取組みの進め方について説明  
今年度上半期は、区と包括で地域ケア会議についての共通認識を図る期間とし、下半期から個別ケースの地域ケア会議の試行実施

H25. 8月

**個別ケース地域ケア会議の実践研修**(地域ケア会議活用推進等事業補助金活用)

局担当者が18区ヒアリング(既存の取組み、地域ケア会議についての理解、取組み状況)

H25. 9月

**個別ケース地域ケア会議について、市から関係団体への協力依頼**

**今後の予定**

個別ケース地域ケア会議の試行実施

必要な研修の実施

試行実施内容の共有(報告会など)

本市としての全体像構築、標準化のための手引き作成(区担当者等とのワーキングなど)

6



## 取組みの実際<個別ケース地域ケア会議の試行>



検討ケース: 80代夫婦世帯 妻: 認知症(要介護1) 夫: 介護者 マンション住まい  
利用サービス: デイサービス  
夫の困り事: これまで徘徊で4回警察に保護される。一人でおいて置けない。  
妻の状況については、ごく親しい人にしか話していない。

参加者: 夫、担当ケアマネジャー、デイサービス職員、民生委員、区社協職員、地域ケアプラザコーディネーター、包括職員、区職員

夫の希望: 買い物に出かけるのも心配 自分が出かける時にお茶飲みにきてくれる人がいるといい。  
1人でフラフラ歩いていたら声をかけてもらえるといい。  
徘徊で遠方まで行ってしまった時は、見つかった場所を所管する警察との調整になり大変。地元警察が相談に乗ってくれたら心強い。

分かったこと: 区が実施する徘徊認知症高齢者の登録をしていたが、行方不明になったときには、警察にしか連絡しておらず、システムが活用されていなかった。  
夫婦が居住するマンションでは、昨年「高齢者要支援対策委員会」が立ち上がり、居住者に対し「して欲しいこと、自分ができること」についてアンケートを実施していたが、そこで活動が止まっていた。  
こういった動きがあることをケアマネ、包括は、この場で初めて知った。

地域ケア会議を実施して: 情報がつながって、具体的取り組みのアイデアが出てきた。  
12月くらいに、その後どうなったかもう一度集まることになった。

夫の感想: 初めは、こんなにたくさんの人に迷惑をかけて申し訳ないと言っていたが、終了後は、妻のことを地域の人が知ってもらうのもいいのかもしれない。相談してみるのも必要だね。参加してよかったという感想が聞かれた。

ケアマネ: マンションにこのような委員会があることを全く知らなかった。夫の気持ちが変わってよくわかった。  
包括: 地域の情報が入り、区社協や民生委員、コーディネーターなどがつながり具体的なアイデアも出てきた。  
これまでの包括、区、ケアマネでの検討だけでは気づけなかった地域の資源も把握できた。

区: 徘徊認知症高齢者SOSネットワーク会議で課題提起など、できそうなことが見えた。

7

## 取組みの実際<区単位で共通認識を図るための研修会を開催>



研修企画経緯: 地域ケア会議の取り組みを進めるにあたって、区と包括が同じ研修を受けて、大事なことを押さえおろがぶれないように取り組んでいきたいという思いで区の職員が企画

参加者: 区職員(社会福祉職、保健師)、包括職員(3職種)、地域ケアプラザコーディネーター、社会福祉協議会職員

研修内容: 外部講師による講義、演習

地域ケア会議の機能を有すると思うこれまでの取組みの実践例を出し合う

<発表例1> 定例カンファレンス(区・包括)の場において出てくるケース  
ある地域に集中していることに気づいた→地域特性、共通課題を分析  
・入れ替わりが激しい、公的サービスの利用につながらない、外国人が多い・・・  
自治会役員、民生委員、地区社協、包括、地域交流コーディネーター、区(高齢担当、こども担当、事業企画担当)によるプロジェクト立ち上げ  
→現状共有、それぞれも困っていることが分かり、課題の共有ができた  
できそうなことから少しずつ具体的な取組み計画

<発表例2> 毎月地域の人が集まるエリアミーティングの場で、  
障害のある子は、夏休み期間中、地域内に過ごせる場がないことが課題にあがった  
何かできないか→包括職員が個別支援学級の先生に相談  
(認知症サポーター養成講座で学校とはつながりがあった)  
最終的には、3校の個別支援学級の先生、隣接区の地域ケアプラザのコーディネーター、児童委員の協力が得られ、余暇支援の場が立ち上がった。  
高齢者の事例ではないが、この経験は高齢者の課題にも応用可能

個別のケース課題から、地域課題へ、ネットワークによる資源づくり→個別ケースの課題解決につながる(個に返っていく取組み)

個別ケースの課題検討

ネットワーク構築

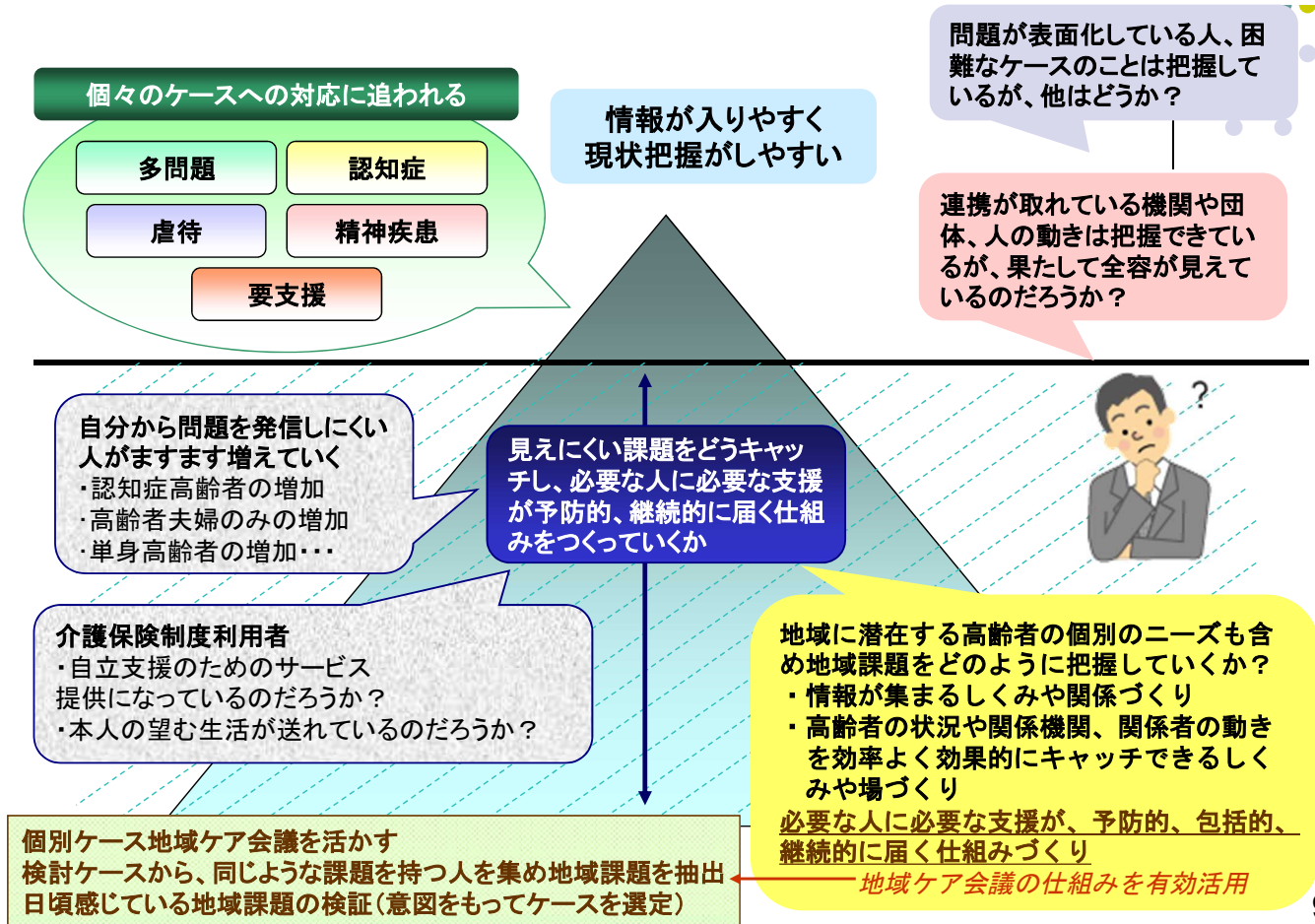
地域課題発見

地域づくり・資源開発

多職種での検討がまだ弱いという課題はある

8

# 今後の課題 <地域診断、地域のニーズ把握、解決のための仕組みづくり>



## 今後の課題 区域～市域レベルの地域ケア会議

### <現状>

機能を有する代表者レベルの会議の場はあっても、事業報告が中心になっている。

地域で起こっている個々のケースの具体的な課題や現場の生の声から集積した地域課題を、そこに直面している人だけではなく、関係機関・団体の人や市民と共有し、必要な取り組みやそれぞれの立場でできることを考えてもらい、行動してもらえようような検討の場にしていくこと  
課題提起の方法や、会議運営について、区と包括で知恵を出し合い工夫しながら運営していくことが必要

### <求められていること>

- ・本人と家族の問題に後追い対応
- ・一部の専門職、行政職員中心に対応
- ・問題ごとに断片的、一時的
- ・その時々対策をやっておしまい

- ・本人と家族がより良く暮らしていくための早期からの予防的支援
- ・本人、家族を中心に専門職・行政職が地域の多様な人々と協働
- ・本人と家族の暮らしにそって包括的、継続的に支援
- ・地域の人も含めた仕組みで対応
- ・中長期視点をもって、着実な積み上げ、展開

現場に近ければ近いほど、目先の対応に追われる。行政は、全体を俯瞰的に見て、求められている方向性を見失わないように包括とともに着実に取り組みを推進